

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述・選択・計算・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

空欄補充のような記述の出題形式の問題が多かった。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

一つの大問から多くの分野に関する出題が見られた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 選択 計算 論述	宇宙 恒星と星団	地学	比較的平易な計算が多く、取り組みやすい。 問 5(1)は、文章化が難しい。最も光度の大きい恒星から、その質量を見積もって文章を組み立てよう。	標準
II	記述 論述 選択 計算	固体地球 地球磁場 大気海洋 エネルギー収支	地学	問 5(2)は、計算のみでなく文章も上手くまとめて証明しよう。 問 6 は、文章化が難しい。与えられた語のうち、季節風と潜熱、亜熱帯環流と顕熱を組み合わせ文章を組み立てるとよいだろう。	標準
III	記述 論述 計算 選択	固体地球 重力異常 岩石鉱物 マグマの発生	地学	空欄補充問題の数が京大としては非常に多い。確実に得点しよう。 問 2 は、アイソスタシーと重力異常を関連付けながら文章を組み立てよう。	やや易
IV	選択 記述 論述	地質地史 地質図 日本列島の地史	地学	問 4(4)は、へき開や複屈折の有無について論述してもよいだろう。 問 5, 問 6, 問 7 の論述問題は字数が少なめに制限されている。必要なことを簡潔にまとめよう。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

京大の入試地学は解答形式が多様であり、論述・計算問題の占める比率の高さが特徴的である。また、出題分野も多岐にわたるため広範な知識が要求される。

計算問題は、非常に煩雑な計算が出題されることはあまりないが、出題数が多い。短時間で解く練習が必要である。近年、論述問題は字数制限での出題が多い。過不足なく文章を組み立てる練習も必要である。いずれにせよ計算力・論述力を高めるための練習を繰り返そう。